

第1回研究会

7月5日(木) 江戸川区立第四葛西小学校

「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」
— 視覚認知力を高めるための指導 —

講師 慶應義塾大学教授 中野泰志先生

1. 研究授業

対象児童 第3学年1名 第4学年1名

授業者 荒川 清司 教諭

西森 友美 教諭

題材名1 「バランスよく体を動かそう」

題材名2 「漢字名人になろう」

2. 授業者自評

〈荒川教諭〉二人で一緒にバランス運動や道具を使うゲームを意欲的に行いながら、感覚統合の土台の力を育てたいと、実態に合わせた教材・教具を工夫しました。

〈西森教諭〉漢字を形よく書くためには、漢字の部首に着目し、始点と終点や筆順に気を付けながら練習することで、位置関係をとらえる視覚認知力が伸びると考えました。



3. 質疑応答・協議

- 一本橋の高さや風船の使用など、実態に合った工夫がされていました。紅白玉は両方の色を使い分けると見やすくていいと思います。
- 漢字の部首に焦点を当てて指導する方法は、成り立ちを知って他の漢字に興味が広がっていくので、効果的な学習法だと思います。
- 水書用筆や太字のボールペンは、書字指導の目的にあった道具だと思います。消せるペンの使用も有効です。また、それぞれの筆記用具に適した持ち方を定着させると、さらに効果が上がると思います。
- 漢字指導は、黒板を利用するよりも手元で字形をしっかり見せることが大切です。点やとめはねなどは、はっきりと分かりやすく見せる工夫も必要です。
- 書見台は、弱視児は眩しさが懸念されるので、表面を黒い色にした方が見やすいです。

4. 指導・助言、講話

(1) 本日の授業について

- 対象児童の視機能や発達段階等の実態に応じた指導が立案され、自立活動の各領域との関連が明確に提示されました。

(記録 足立小学校 濵谷)

上野動物園サマースクール報告

7月24日(火)、恩賜上野動物園のサマースクールが行われました。

今年のテーマは、「それいけ！動物のおとしものはっけん隊」。まず、動物の派生物の見本（毛や羽、糞など）を観察し、その落とし主である動物を参加者みんなで予想し、その後で、実際にその動物と触れ合いながらそれぞれの動物の特徴を確認しました。正解の動物は、ほぼ子供たちが予想したものでしたが、見本と実際に生えている毛や羽を触って確かめることで、子供たちは、動物たちをより身近に感じることができました。さらに、それぞれのブースでは、オナガドリの羽、カピバラの毛やヤマアラシの毛（とげ）、パンダやゾウの糞なども見せてもらうサプライズがあり、その度に、子供たちは目を輝かせていました。

前日に41.1度という国内最高気温が更新

され、この日もうだるような暑さで、参加者の体調が気遣われましたが、事前から動物園の細やかなご配慮をいただき、活動の大半が涼しい室内で行われたことで、児童は快適に活動を行うことができました。



今年もこのような楽しいプログラムを計画、運営していただき、素敵な思い出を作ってくださった動物園のスタッフ、ボランティアの皆様に、心より感謝申し上げます。

(記録 第四葛西小学校 荒川)

□□見学会□□

10月22日(月)に上野にある「東京障害者職業センター」を訪問し、センターの役割やその支援内容について話を伺いました。

東京障害者職業センターは、障害のある方が安定した職業生活を送ることができるよう、様々な機関と連携・協力して雇用就業に関する支援サービスを提供しています。就業後も、ジョブコーチと呼ばれる支援者が障害のある方の勤務先を一定期間計画的に訪問し、最終的に企業が障害特性を踏まえた適切な雇用管理ができるよう、障害者、事業主双方にアドバイス等を行っているということでした。

視覚障害のある方の利用に関しては、中途障害の方の割合が高く、ジョブコーチ支援の利用が多いとのことでした。視覚障害者本人には拡大読書器などの機器の使用法や、「社内では白杖を持って歩く」などの安全性の確保について助言したり、企業へは視覚障害の特性を伝え、働く環境作りや

業務内容のアドバイスなどをしたりしているという話がありました。

就職するにあたり、教員として児童・生徒にどのような力をつけさせておくことが必要なのか質問すると、事務系の就職では、ショートカットキーやスクリーンリーダーを活用したPC操作技能の力が、全員に共通していることとしては、自身の見え方や必要な支援について自分で伝えられる力が挙げられていました。



(視覚障害者の雇用に関する企業向けの参考資料)

(記録 松江第一中学校 桐渕)